

# 教委だより

No.444



令和8年3月10日

編集発行 富山県教育委員会  
発行人 教育企画課長

## とやまこどもサミット

とやまこどもサミット  
公式HP



1月31日(土)、富山大学五福キャンパスにて「とやまこどもサミット」を開催しました。これは、令和5年の「G7富山・金沢教育大臣会合」の開催をきっかけに、富山、石川両県の中学生、高校生がまとめた「富山・金沢こどもサミット宣言」の趣旨をより多くの人に広めることを目的に、県と県教育委員会が初めて開催したものです。

当日は、個人、学校、各種団体・グループなど、合わせて10組39名の小中高校生が宣言の趣旨に沿った日ごろの取組みについて発表しました。また、発表後には参観者と意見交換を行い、自分たちの日ごろの取組みを見つめ直したり、新たな目標を見出したりする貴重な機会となりました。新田知事も全てのグループの発表を参観し、子どもたちと意見交換を行いました。

サミットの様子については、今後、動画を配信する予定としています。この動画を参考に今後、学校等で子どもたちが行う取組みが、「富山・金沢こどもサミット宣言」のどの項目と関わりがあるのかを考え、取組みをより深めるきっかけになればと考えています。



## とやま探究フォーラム とやまDXハイスクールフォーラム

探究的活動の一層の充実を図ることを目的に、各学校で進めてきた探究的な活動について、その成果を発表する「とやま探究フォーラム」が1月31日(土)に富山大学・富山県教育委員会の主催により富山大学五福

キャンパスで開催されました。また、今年度は、デジタルをフル活用した取組みの成果を発表する「とやまDXハイスクールフォーラム」も同時開催し、合わせて、県立学校24校と私立高校10校の計34校の生徒約350名が参加しました。開会式に続き、高岡高校によるオープニング発表、その後は各校のプレゼンテーション、ポスターセッション形式での発表が行われました。発表終了後には、生徒交流会や教員等交流会が行われ、探究活動に関する意見を交換するなど、学校どうしのつながりを深めました。



## 令和7年度 全国中学校体育大会

### 「全国大会で活躍した富山県の中学生」

富山県中学校体育連盟 理事長 藤田 慎吾

「咲き誇れ！ 君の夢は九州（ここ）にある！」のスローガンのもと、令和7年度全国中学校体育大会が九州ブロックで開催され、本県からは、12競技に163名の選手が参加しました。大会では、金子斐音選手（牧野中）が陸上競技男子400mにおいて、日本中学新記録で優勝の栄冠に輝きました。また、陸上競技男子四種競技の村井涼真選手（芝園中）、水泳競技男子100m背泳ぎの辻口哲平選手（魚津西部中）、男子200m個人メドレーの中谷勇斗選手（南星中）、柔道競技女子40kg級の続麻由芽選手（高岡西条柔道教室）が準優勝するなど、6競技15種目において入賞を果たしました。

また、全日本中学生ホッケー選手権大会（女子）では、RED OX OYABE HCが3位入賞、全日本中学選手権競漕大会では、楡原中学校が女子ダブルスカルで3位入賞するなど、多くの選手が全国の舞台で活躍しました。来年度は、中国ブロックで全国中学校体育大会が開催されます。本連盟では更なる選手の育成支援に努めてまいります。

▶全国中学校陸上競技選手権大会 男子400m 1位（日本中学新）  
高岡市立牧野中学校 金子選手



## 令和7年度 全国高等学校総合体育大会

富山県高等学校体育連盟 理事長 岸 敬子

高校生のスポーツの祭典、「開け未来の扉 中国総体2025」は、7月から8月に中国地方5県を中心に開催され、本県から30競技に489名の選手が参加しました。

本県選手はよく健闘し、弓道男子個人で見事優勝、水泳男子高飛込で2位、ウエイトリフティング女子59kg級、ハンドボール男子、相撲団体、アーチェリー女子団体で3位入賞を果たすなど、13競技29種目で8位以上に入賞する好成績を収めました。

これら選手の活躍は、本人の日々の努力はもちろん、先生方や各競技団体の熱心なご指導と家族のサポートの賜であり、県高体連ではこれまで以上に関係機関と連携し、高校スポーツの更なる発展・充実に努めてまいります。



現地激励会



相撲（高岡向陵高校）



弓道男子（富山第一高校 水口選手）

## 第29回 環日本海インターハイ親善交流大会

8月5日（火）～8月10日（日）の6日間、富山県と環日本海地域（中国遼寧省、韓国江原特別自治道、ロシア沿海地方）との高校生スポーツ交流「第29回環日本海インターハイ親善交流大会」が韓国江原特別自治道で開催されました。バレーボール競技（男子）とバドミントン競技（女子）を通して、競技力の向上を図るとともに、各地域の相互理解と友情を深めました。



## 令和7年度「高校生とやま県議会」開催

高校生の主体的な政治参加意識や地域参画意識の向上を図ることを目的に、今年度も「高校生とやま県議会」を実施しました。7月24日の開会式では、県内の高校2年生49名の「高校生議員」に議員認定証が渡され、12月17日の本会議までの4回の活動において、知事・県議会議員との意見交換等を通して政治参加の大切さを学びました。さらに高校生議員は6つの委員会に分かれて、「みんなのウェルビーイング向上」をテーマに、高校生の視点から県政に対する提案を協議、発表しました。

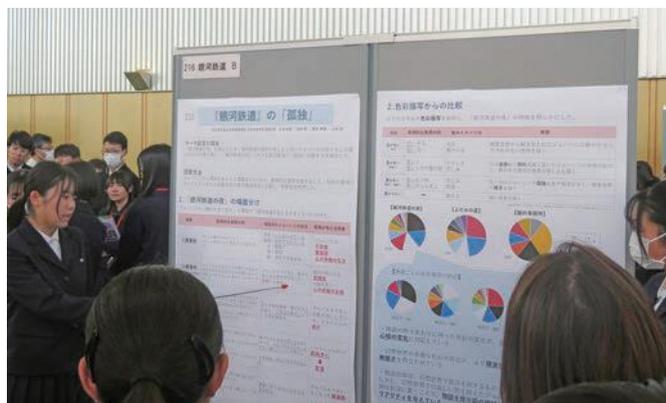


本会議の様子

## 探究科学科三校合同課題研究発表会

富山、富山中部、高岡高校の探究科学科(理数科学科・人文社会科学科)による「三校合同課題研究発表会」が12月20日(土)に富山国際会議場で開催され、3校の探究科学科の2年生約240人が58班に分かれ、これまでの研究成果を発表しました。

開会式の後、ステージで各校の代表発表「水柱が発生する方法と原因について」(富山高校)、「まず、翻訳とは…何か(エクスプラナトリー)」(高岡高校)、「竹刀で切断しない? ~かっこいい切り方を目指して~」(富山中部高校)が行われ、活発な質疑応答がありました。ポスターセッションでは、興味を引く様々な研究テーマについて、それぞれのブースで熱意のこもった発表が行われていました。3校の生徒以外にも他校の生徒や保護者、教育関係者など多くの方々が発表に聞き入り、発表者に対して積極的に質問をするなど、会場は活気に満ち溢れていました。



ポスターセッションの様子

## 第13回 科学の甲子園ジュニア全国大会

全国の科学好きな中学生が一堂に会し、筆記と実技の競技で科学の思考力や技能を競う「第13回科学の甲子園ジュニア全国大会」が12月12日から14日にかけて、兵庫県姫路市の兵庫県立武道館で開催されました。本県からは、8月に開催されたとやま科学オリンピック中学校部門の上位入賞者が県代表として出場しました。

今年のチームは、4中学校(富山大学教育学部附属中・富山市立堀川中・富山市立速星中・小矢部市立津沢中)の2年生6名からなる合同チームでした。大会前の研修会でチームワークを高め、大会では一人ひとりが知識と個性を發揮して競技に取り組みました。

なお、3月20日(金)~23日(月)に、茨城県つくば市で開催される「第15回科学の甲子園(高校生)全国大会」には、とやま科学オリンピック高校部門総合戦で優勝した高岡高校のチームが県代表として出場します。

全国大会の詳細はこちらから  
科学の甲子園ジュニア(中学生)



科学の甲子園(高校生)



## 学校給食優良学校等表彰



令和7年度学校給食優良学校等が選ばれました。

	富山県教育委員会表彰	(公財)富山県学校給食会表彰
学校給食優良学校	上市町立上市中央小学校 高岡市立こまどり支援学校	小矢部市立石動小学校
学校給食功労団体	新川きゅうり出荷組合	
学校給食功労者(調理業務)	中村 得子 (富山県立高岡支援学校) 山本 晶子 (富山市立三成小学校)	泉 真由美 (富山市立熊野小学校) 西田 裕子 (南砺市立利賀学舎)

## 学校給食とやまの日(南砺市)の取組み

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の1日または数日を「学校給食とやまの日」とし、県産食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校、義務教育学校では、市町村や学校給食関係者の協力を得ながら、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

南砺市では、11月10日(月)から14日(金)の5日間を、「な〜んと！おいしい学校給食週間」として、特別メニューを実施しました。福光地域のブランド牛「牛赤丸(うしあかまる)」を使用した「牛赤丸ハッシュドビーフ」や、利賀地域の「白爵(はくしゃく)かぼちゃ」と平地域の「えごま」を用いた「白爵かぼちゃのえごまあえ」など、市内の児童生徒は多くの地元の食材を味わうことができました。また、給食に登場した「赤かぶ」や「五箇山豆腐」のレシピが各家庭に配布され、保護者の方々も地場産物について知るよい機会となりました。

利賀学舎では、「白爵かぼちゃ」の生産・加工を行う団体の代表者を招いた交流会食が開かれました。子供たちは生産者の方と一緒に特産のかぼちゃを味わいながら、名前の由来や特徴について直接話を聞いたり、感謝の気持ちを伝えたりして交流を深めました。



【利賀地域特産「白爵かぼちゃ」生産者との交流会食】



【牛赤丸ハッシュドビーフの日】

## とやま学校多忙化解消推進委員会

教員の働き方改革、多忙化解消に向けた方策を議論・検討する「とやま学校多忙化解消推進委員会」の第1回会議を10月29日(水)、第2回会議を1月28日(水)、第3回会議を2月20日(金)に開催しました。

この委員会は、大橋 聡司委員長(富山経済同友会副代表幹事)、吉田 学副委員長(富山大学教育学部教授)をはじめ、経済界、法曹界、PTA、校長会、市町村教育委員会、職員団体からの計15名の委員で構成されています。

本年度は、給特法の改正により服務監督教育委員会に策定・公表が義務づけられた、教員の業務量の適切な管理及び健康・福祉を確保するための措置(「業務量管理・健康確保措置実施計画」にあたる「県立学校における働き方改革推進プラン(令和7~10年度)」)について議論を重ね、策定しました。

今後は、委員の皆様からいただいたご意見や提案などを踏まえ、実効性のあるPDCAサイクルを実施することで、さらなる働き方改革の推進に取り組んでまいります。



## ふるさと教育の推進に向けて

県教育委員会では、郷土の先人たちの生い立ちや功績、自ら立てた志に向かって挑戦・努力する姿を紹介したデジタルブック「ふるさととやまの人物ものがたり」、富山の自然等を通して探究する態度や科学する心を育てるためにデジタルブック「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」を作成し、ふるさと教育の一環として、児童生徒の地域への愛着を深める教育を実施しています。

また、小学生用デジタルブック「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」の更なる活用を図るため、富山県科学展覧会の開催時期にあわせて、毎年実験教室を実施しています。今年度は、風力発電ペットボトル工作に取り組む「科学実験教室」を行い、43家族73名の参加をいただき、大盛況でした。

今後も、児童生徒が先人の生き方に学ぶことを通して将来の夢や希望をもつ機会の創出、自然や環境等に対する好奇心をもち、探究心を育む場の設定など、ふるさと教育の推進に努めていきます。



## 幼児教育センターの取り組み

富山県幼児教育センターでは、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、幼児教育施設と小学校の先生方が顔を合わせ、相互理解が進むよう取り組んでいます。

今年度の幼児教育施設訪問研修では実施園・所の約75%で近隣の小学校の先生方が参加し、日常的な交流のきっかけとなっています。

また、県内4地区で行った「地区別幼児教育・小学校教育接続研修会」では、幼児教育施設から154名、小学校から122名が参加し、一緒に演習することを通して、子供にとって学びのある交流活動の在り方について話し合いました。

今後も、幼保小の先生方が互いの教育・保育に理解を深め、子ども達の学びが円滑に接続されるよう積極的な支援に取り組んでまいります。



令和7年度地区別幼・小接続研修会の様子

## 中学校・義務教育学校及び高等学校卒業者の進路状況調査結果

— 令和7年5月1日現在 —

### 1 中学校・義務教育学校 <表1>

令和7年3月に県内の中学校(国立1校、公立72校1分校、私立1校)、義務教育学校(公立4校)を卒業した生徒は8,504人でした。高等学校等進学率は99.2%、就職率は0.1%でした。

<表1> 中学校・義務教育学校卒業者の進路状況

各年3月	実数(人)						割合(%)		
	a	b	c	d	e	f	b/a	c/a	(d+f)/a
R5	8,750	8,689	1	11	49	1	99.3	0.0	0.1
R6	8,618	8,548	4	8	58	-	99.2	0.0	0.1
R7	8,504	8,434	4	8	58	1	99.2	0.0	0.1

### 2 高等学校 <表2>

令和7年3月に県内の高等学校(公立37校2分校、私立10校)を卒業した生徒は7,772人でした。大学等進学率は59.4%、就職率は18.2%でした。

<表2> 高等学校卒業者の進路状況

各年3月	実数(人)						割合(%)			
	a	b	c	d	e	f	b/a	c/a	(d+f)/a	(b+c+d+e)/a
R5	8,308	4,774	1,558	1,633	189	154	57.5	18.8	19.7	98.1
R6	8,040	4,699	1,515	1,510	159	157	58.4	18.8	18.8	98.0
R7	7,772	4,617	1,442	1,413	158	142	59.4	18.6	18.2	98.2

※詳しくは、HPをご覧ください。

[https://www.pref.toyama.jp/300203/kurashi/kyouiku/gakkou/shinrojoukyou/sotugo\\_r07.html](https://www.pref.toyama.jp/300203/kurashi/kyouiku/gakkou/shinrojoukyou/sotugo_r07.html)

# 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

スポーツ庁が発表した調査結果（概要）には、「体力合計点は、小中学校男女共に前年度から向上しているが、中学校男子を除いてコロナ前の水準に至っていない。」とあり、小中学校男女共に「運動時間の減少」と「スクリーンタイム※の増加などの生活習慣の変化」といった傾向が挙げられています。

本県の体力合計点は、小学校では男子が改善し、総合的な体力は戻りつつありますが、女子は昨年に引き続き低下し、全国の傾向と同様に、総合的な体力は低下を続け、コロナ前の水準に戻っていません。中学校男子では昨年に引き続き増加し、コロナ前の水準に戻りつつあるほか、昨年まで低下を続けた女子の体力は横ばいとなり、総合的な体力は下げ止まり傾向にあります。

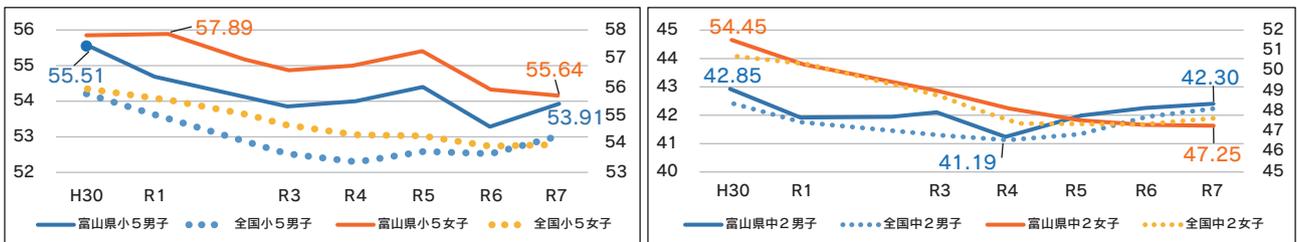
※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

## 1 体力・運動能力、運動習慣等調査結果の富山県概要

〈小5・中2の調査結果：悉皆調査〉 (網かけ：本県平均値が全国平均値以上の種目)

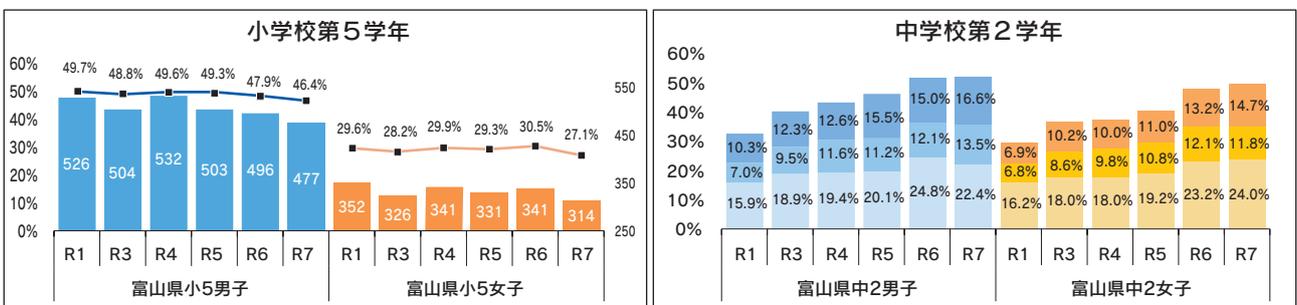
種目等	小学校第5学年（公立）				中学校第2学年（公立）			
	男子		女子		男子		女子	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
握力 (kg)	16.07	15.96	15.68	15.61	29.12	28.95	22.84	23.15
上体起こし (回)	19.36	19.46	18.52	18.36	25.51	26.09	20.97	21.70
長座体前屈 (cm)	33.01	33.88	37.56	38.19	44.79	45.12	46.41	46.99
反復横とび (点)	42.86	40.89	40.82	38.70	51.79	51.64	45.42	45.74
持久走 (秒)	/		/		413.67	409.25	314.43	309.66
20mシャトルラン(回)	51.87	47.94	41.12	36.85	79.87	78.82	51.75	50.60
50m走 (秒)	9.52	9.46	9.78	9.77	8.06	8.00	9.04	8.97
立ち幅とび (cm)	154.57	150.93	146.93	142.34	200.31	197.51	168.16	166.44
ボール投げ (m)	22.16	21.06	14.51	13.11	21.27	20.74	12.88	12.43
体力合計点	53.91	53.02	55.64	53.97	42.30	42.20	47.25	47.58

## 2 体力合計点(各種目の記録をそれぞれ得点化し、合計した点数の平均値)の推移



※令和2年度は調査なし

## 3 1週間の総運動時間とスクリーンタイム(平日の視聴時間が3時間以上の割合)の推移



※折線は週420分以上の割合

※積算グラフは下から「3~4時間」、「4~5時間」、「5時間以上」

コロナ禍以降、本県の小・中学生の男女において、1週間の総運動時間は減少傾向にある一方、「3時間以上」のスクリーンタイムの割合が増加傾向にあります。児童生徒一人一人がスクリーンタイムを含めた生活を見直すとともに、生活の中に運動の習慣を位置付けるなど、規則正しい健康的な生活習慣をつくることが重要です。

また、運動を行うことで脳の動きが活発になり、集中力が高まったり、不安な気持ちが和らいたりすると報告されています。児童生徒が心身ともに健康な生活を送っていくためにも、運動の効果や必要性について、児童生徒及び保護者に繰り返し伝えていくことが大切です。

# 総合教育センター NOW

## 教育研修部

### 「豊かな気付き」につながる研修を目指して

「令和7年度 富山県教育委員会重点施策」では、基本方針の一つとして、「子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進」を掲げ、「教員の資質向上、働き方改革の推進」の方向性を打ち出しています。その中で、

- ・キャリアステージに応じた研修の充実
- ・教師力向上支援事業
- ・教師の学び支援塾事業
- ・小中学校授業力向上対策事業 等の事業をすすめているところです。

教育研修部でも、総合教育センター運営協議会における、令和7年度協議題「教師の主体的・対話的で深い学びを実現する研修の在り方～『豊かな気付き』につながる研修スタイルの見直しを中心に～」の下、主に基本研修に当たる年次研修、主任・職務研修を中心に企画・運営を行ってきました。

特に、「研修スタイル」については、研修のねらいに応じて、対面研修だけでなく、オンデマンド研修や交流研修、ワークショップ形式等を取り入れ、より「豊かな気付き」につながるよう試行錯誤を重ねているところです。

今後も、研修内容が学校現場の最新の教育課題に即した内容となるよう適時見直し、併せて教員の多忙化にも配慮しつつ内容の重点化や精選、研修スタイルや実施方法の最適化も図っていきたいと考えています。



若手教員研修(2年次教員・年次交流研修)

## 科学情報部

### 富山の教育を応援する「教育資料室」

富山県総合教育センターには、県内の教育関係者の研究や教材研究を支える「教育資料室」があります。当室は専門書や教育雑誌、県内小・中学校の教育研究会による貴重な実践資料等を幅広く収蔵しています。また、全国の教育センターや大学から届く最新の研究紀要、各種団体による実践報告書も豊富に取り揃えており、常に最新の教育動向に触れることができます。

大きな特徴の一つとして、教科書のアーカイブが挙げられます。小学校(昭和46年～)、中学校(昭和47年～)、高校(平成15年～)から最新のものまで、歴代の教科書を実際に手に取って比較検討することが可能です(※閲覧のみで、複写・貸出は不可)。

現在は、研修や会議で来所される先生方、大学教員等多くの方々にご利用いただいています。現場の先生方がここで調査・研究を通じて授業の質を高めることは、最終的に児童生徒のよりよい学びへとつながっていきます。

ぜひお気軽にご活用ください。

#### 利用案内

場 所：富山県総合教育センター 教育ビル3階

時 間：平日 8:30～17:00

対 象：県内の国公立学校(園)・教育機関に勤務する教職員、  
所長が認めた学校教育関係者



## 教育相談部

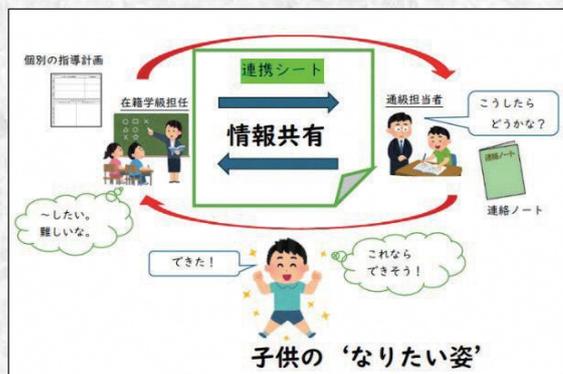
### 子供の「なりたい姿」を支えるための

### 「在籍学級と通級による指導をつなぐ連携シート」

「在籍学級と通級による指導をつなぐ連携シート(以下「連携シート」)」は、在籍学級の担任と通級指導教室担当者が子供の困りや強みを共有し、通級指導教室で行った支援を在籍学級の指導・支援に生かしていくために作成しました。

担任と通級指導教室担当者が連携するためのツールとして、「個別の指導計画」や「連絡ノート」等がありますが、この「連携シート」では特に、子供の「なりたい姿」から見える日々の困りに焦点を絞ることで、通級指導教室での具体的な支援が見えやすくなっています。

このシートを活用し、みんなで一緒に子供の「なりたい姿」を支えることを目指しませんか。



様式等は、以下の富山県総合教育センターウェブページからアクセスできます。

[https://www.center.tym.ed.jp/wp-content/uploads/R7tsuukyuu\\_renkeishi-to\\_syoukaibun.pdf](https://www.center.tym.ed.jp/wp-content/uploads/R7tsuukyuu_renkeishi-to_syoukaibun.pdf)

# 子育てネッ！とやま

HP「子育てネッ！とやま」では、子育てや家庭教育に関する情報を掲載しています。LINE公式アカウントでも随時配信しておりますので、ご利用ください。

今年度は、親学び講座紹介動画を制作・公開しました。参加者の声や講座の雰囲気や、この動画でぜひご覧ください。

LINE公式アカウントの登録はこちらから ↓



親学び講座紹介動画 令和7年10月公開  
「Let's親学び講座 講座紹介編」  
「Let's親学び講座 推進リーダー編」

こちらから  
ご覧になれます⇒



## 公民館deつながるモデル事業

令和5年度にスタートした「公民館deつながるモデル事業」も、今年で3年目を迎えました。この事業は、地域交流の拠点である公民館が、集合対面型の活動に加えてデジタル技術を活用し、人と人との新たなつながりを生み出すことを目的としています。これまでに、のべ32館のモデル公民館が参加しており、今年度は県内8市町11モデル公民館が活動に取り組みました。

オンライン講座の進行方法や SNS、二次元コードの活用などをテーマに、実技講座（全5回）と実践発表会を実施し、職員のスキル向上を図りました。各館では Instagram やホームページを活用した情報発信に加え、ハイブリッド講座やオンライン交流会など、県内外とのつながりも広がっています。特に Instagram の活用が進み、地域の特色を活かした工夫ある発信が見られるようになりました。

また、「講座ではどんなことをしているの？」という声に応え、Canva を使ったチラシ作り体験会も開催。デジタルを身近に感じるきっかけとなり、参加者の自信や楽しさにもつながりました。今後もこうした取組みが、公民館活動の広がりや地域の活性化につながっていくことが期待されます。



「スキルアップ講座：オンライン体験」



「スキルアップ講座体験会：チラシづくり」

## 育休体験記 No.3 東部教育事務所 管理課 松岡 航平 主任に聞きました！

育休期間：令和7年9月～10月（生後11か月～12か月）

### 育休をとろうと思ったきっかけを教えてください

第1・2子のときには育休を取得しなかったのですが、今回が最後のチャンスだと思い、取得しました。

### 育休中の生活について教えてください

上の子どもたちの送迎の合間に、支援センターやベビースイミングなど、外に出かけることが多かったです。そのときの予定に応じて、一人で連れて行ったり、夫婦で一緒に出かけたりしました。

### 育休を終えた今の気持ちをお聞かせください

いろいろなものに興味が出てきて、動きが活発になる時期に、子どもと向き合う時間をたっぷり確保することができ、とても充実した期間となりました。

### これから育休をとろうと思っている方へ一言

育児は楽しみや喜びを感じられる反面、大変な場面に遭遇することも多くあります。そのようなときに夫婦2人でいることで、心理的に余裕をもって対応することができます。貴重な機会になると思うので、ぜひ育休を取得してください。

貴重な体験談、ありがとうございました！